

ダイネツ商事株式会社

40 期 環境経営レポート 2023年度

(対象期間: 2023 年10月1日～ 2024 年9月30日)



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

作成日 : 2024年12月25日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ・会社方針・品質方針	3
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価及びカーボンニュートラムに向けたわが社の取り組み	8～12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	14

□ごあいさつ

ダイネツ商事はダイネツグループの一員です。先代より引継ぎ私で2代目になります、2023年10月で40年を迎えた会社です。創業当初は普通鋼の切断加工と月に数十トンの鋼材販売で始まり、競合他社が嫌がる安価で手間取る仕事を根気よく継続してまいりました。その継続の結果お客様からの信頼を得て、大きな案件を頂くまでになりました。まさに「点滴穿石」により、お客様の心に届いた結果と考えています。

時代の変化と顧客ニーズに対応しながら設備投資などを行い様々な鋼板加工技術を蓄積し、作業者のスキルアップ徐々に図れ大きなことを成し遂げる力となる会社となってまいりました。

当社は住宅関連の比率が大きく、加工部材は通常は見えない部分の躯体部の重要なところを製造しています。重要部材であればあるほどその精度は厳格であるため、それに応えるためには品質強化・社員の技術力強化が必要です。創意工夫、技術の向上等、個々がさまざまな役割の中で挑戦し、社内の連携で社員同士が理解を深め、支え合い、高め合える機会を提供することが私の役割です。

今後も社員全員が生きがいを持って働ける会社を目指してまいります。

代表取締役社長 山原 圭三

I. 会 社 方 針

- 1.安全な作業場作り
- 2.安心して仕事ができる環境作り
- 3.安定した経営作り

制定:2022年12月1日

代表取締役社長 山原 圭三

II. 品 質 方 針

ニーズにあったコストと品質を提供し、顧客満足を得る

当社は、顧客満足を得る製品実現のため目標を設定して、品質マネジメントシステムを有効に活用し、継続的に改善します。

【基本方針】

- 1、より良いものづくりのため、現状に満足せず継続的改善を行います。
- 2、社員の能力・技能レベルアップのため、教育・訓練を実践します。
- 3、当社の「品質」とは各グループの活動内容を活性化させることである。
- 4、不具合発生時は、徹底的に掘り下げて、真の原因を究明する、真の原因究明が出来なければ、有効的な対策はできない。

制定：2017年6月20日

代表取締役社長 山原 圭三

環境経営方針

<環境経営理念>

《基本理念》私たちは、自社の行う事業活動の全域で、二酸化炭素削減に向けた“地球環境保全への たゆまぬ配慮”に努め、品質・価格・納期と同様 《 自然と環境に優しく 》 をモットーに、日々環境活動に取り組みお客様から信頼される企業を目指し、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

《基本理念》の実現の為、下記「環境目標」を設定し、自主的・積極的・継続的な取組を図ります。また、環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

1. 節電の推進で二酸化炭素排出量を削減します。
2. 車両のエコドライブ等に努め二酸化炭素排出量を削減します。
3. ロスを最小限に抑え、材料を有効に活用します。
4. 廃棄物の削減を図るため有効利用を検討し、環境負荷の軽減化に努めます。
5. 水使用量の削減に努めます。
6. エコアクション21等の環境への取組を通して環境負荷低減を図り、企業価値向上を目指します。



7. 環境方針の周知徹底を含め、環境学習を通じた社員全員の環境意識の向上を図ります。

制定日：2005年1月5日

改定日：2022年12月1日

代表取締役社長 山原 圭三

□組織の概要

更新日：2023年12月20日

(1) 名称及び代表者名

ダイネツ商事株式会社
代表取締役社長 山原 圭三

(2) 所在地

本社・堺浜工場 大阪府堺市堺区匠町17-7

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	総務部長	木田 和匡	TEL：072-227-1431
担当者	品証部	辻野 徳男	TEL：072-227-1431

(4) 事業内容

住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

(5) 事業の規模

売上高 8,010 百万円

		本社・堺浜工場
従業員	名	49 名
延べ床面積	m ²	5600 m ²

(6) 事業年度

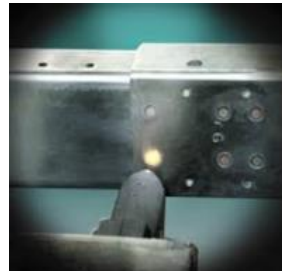
10 月 1 日 ～ 9 月 30 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：	ダイネツ商事株式会社
対象事業所：	本社・堺浜工場
対象外：	全社対象範囲
活動：	住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

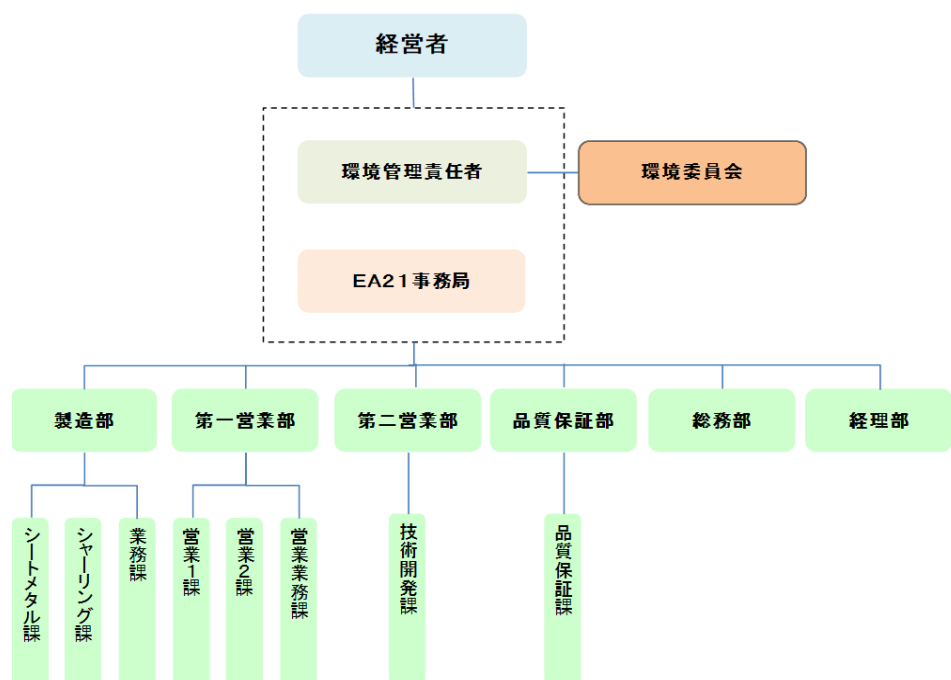
□事業や製品(商品)の紹介

鋼板の販売・加工に事業展開するために、商社としての機能と自社工場での加工も行っています。
主に住宅関連部材の加工及び販売を行っています。



□有資格一覧

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・振動関係公害防止管理資格・騒音関係公害防止管理資格・第一種衛生管理者・第二種電気工事士・プレス機械作業主任者・クレーン運転の業務に係る特別教育・玉掛技能講習・フォークリフト運転技能講習 | <ul style="list-style-type: none">・安全管理者選任時研修・防災管理者講習・ガス溶接技能講習・アーク溶接特別教育・ISO9001内部品質監査員養成講習・品質管理検定・仮設工業会品質管理責任者講習・産業用ロボットの教示等特別教育 |
|--|--|



《役割・責任・権限表》

■代表者（経営者）

1. 環境管理責任者他必要な責任者を任命する。
2. 環境経営システム構築・運用・維持に必要な経営
3. 環境経営に関する基本理念・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。
4. 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標等システムの見直し・改訂を指示する。

■環境管理責任者

1. 環境経営最高責任者を補佐し、環境経営システムの構築と運用を図る。
2. 環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図る為、環境経営推進委員会を運営する。

■部門推進責任者

1. 自己の管理範囲内に於いて、全員参画に依る環境経営システムの運用及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。
2. 他部門推進責任者との連携を密にし、特に共通取組事項については積極的にその整合・推進を図る。

■各課推進責任者

1. 部門推進責任者の命を受け、環境経営システムの運用及び管理を行う。
2. 具体的活動施策の立案・推進に当たっては、副推進責任者と充分協議し、その指導に当たる。

■活動計画担当者

1. 各部門の「環境経営項目」決定後、該当担当項目について、毎月実績把握及び差異分析を行う。
2. Q及び年間の総括時（「環境委員会」）には、その内容をコメントとしてまとめる

■全従業員

1. 「環境経営方針」を理解し、「環境経営活動」の策定・実施にあたって、活動計画担当者の要請がある場合は協力する。
2. 日常活動においては、エコアクション21の推進に自主的・積極的に取り組む。

■環境委員会

1. 4半期に1回実施担当者以上を招集し、活動状況及び目標達成報告を受けて是正が必要と判断すれば是正指示を促す。

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	38 期	39 期	40 期
		2021.10.1～	2022.10.1～	2023.10.1～
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	207,832	159,349	96,007
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	2,263.90	2,264.00	1,866.60
産業廃棄物排出量	kg	9,764.30	10,770.00	7,750.00
水使用量	m ³	697	676	396

※購入電力CO2排出係数 0.734 kg-CO2/kWh (2021年度 オリックス(株)開示数値)

■2023年6月CO2排出係数低い購入電力に変更 0.235 kg-CO2/kWh (2021年度 オリックス(株)開示数値)

※廃棄物排出量には再資源化を含む。

※化学物質は使用していません。

□環境経営目標及びその実績

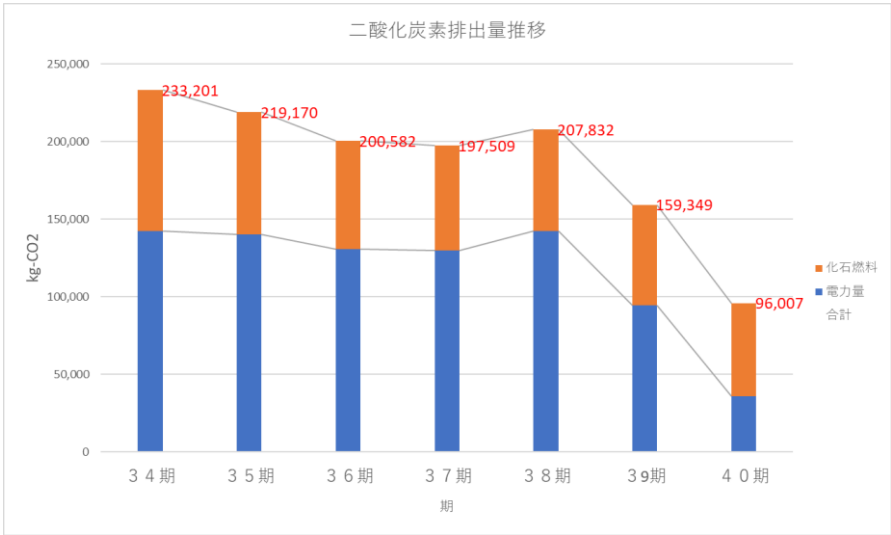
項 目		年 度	基準値 (基準年)	40 期 2023.10.1～		評 価	41 期 2024.10.1～	42 期 2025.10.1～
				(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 (事務所棟)	kg-CO2		25,644	6,411	5,364	○	5,129	3,847
	基準年度比	38期		25.0%	20.9%		20.0%	15.0%
原単位 1、3Q原単位 (秋、春：電力負荷小) 2、4Q原単位 (冬、夏：電力負荷大)	kWh/日		211.93	190.74	176.41	○	190.74	182.74
	kWh/日		265.37	238.83	247.84	×	237.51	236.18
電力による二酸化炭素削減 (工場棟)	kg-CO2		91,098	72,878	30,397	○	68,323	63,768
	基準年度比	38期		80.0%	33.4%		75.0%	70.0%
原単位	kWh/個		2,330	2,110	2,080	○	2,287	2,266
自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリ】	kg-CO2		40,196	39,794	35,517	○	39,593	39,392
	基準年度比	38期		99.0%	88.4%		98.5%	98.0%
原単位	km/ℓ		16.04	16.20	18.16	○	16.28	16.36
自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	kg-CO2		24,997	24,747	24,615	○	24,497	24,247
	基準年度比	38期		99.0%	98.5%		98.0%	97.0%
原単位	km/ℓ		6.54	6.87	7.45	○	6.90	6.93
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		181,936	143,831	95,894		137,543	131,255
事務所棟一般廃棄物の削減	kg/月		122.3	111.3	26.3	○	110.7	110.1
	基準年度比	28期		91.0%	21.5%		90.5%	90.0%
工場棟一般廃棄物の削減	kg/月		25.4	24.8	20.1	○	24.7	24.5
	基準年度比	36期		97.5%	79.1%		97.0%	96.5%
製造部スクラップ発生率 (シャーリング課)	%		7.52%	7.25%	7.20%	○	7.25%	7.22%
	基準年度比	34期		96.3%	95.7%		96.3%	96.0%
小梁受ピーススクラップ発生率 (シートメタル)	%		18.0%	17.6%	16.4%	○	17.5%	17.4%
	基準年度比	38期		97.5%	91.0%		97.0%	96.5%
水道水の削減	ℓ/人・月		721	717	631	○	714	710
	基準年度比	39期		99.5%	87.5%		99.0%	98.5%
企業価値向上	行動目標(次項による)							

※都市ガスは少量のため削減目標としていません。

※一般廃棄物は焼却可燃物を削減目標の対象としています。

※原単位 日：稼働日数 個：出荷個数 スクラップ発生率＝スクラップ重量/材料重量

※各項目の目標値は注釈ない場合は平均値を表す。

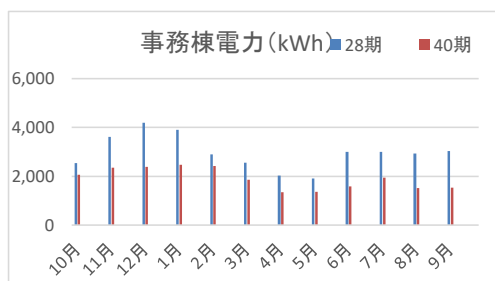


□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(事務所棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は1・3Qでは目標を達成、2・4Qでは目標を未達成となりました。
会議室及び応接室等の消し忘れパトロールの実施	△	1・3Qは1Qは暖冬だったこともあり外気温が高く、3Qでは外気温は高かったものの日々の細かな節約により目標を達成できたと考えられる。
事務所内における昼休み消灯の実施	○	2・4Qは2Qが1Qに続き暖冬だったこともあり電力量を抑えることが出来たが、4Qでは近年の外気温の上昇により、室外機の稼働をさえることが難しく目標を未達成となりました。その他にも、5月に新しく3Dプリンターを導入したことも1つの要因と考えられる。
年間電力量の揭示	○	41期では、仕事に支障が出ないように注意しながら節電活動に努めて行きます。
ブラインドやカーテンの利用などにより、熱の出入りを調節	○	
昼休みにおける使用空調機の節電の実施	○	
消灯忘れ発見時は翌日のミーティングにて注意喚起を促す。	○	
空調機タイマー設定	△	
夏季における軽装(クールビズ)、冬季における重ね着(ウォームビズ)など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑える	○	

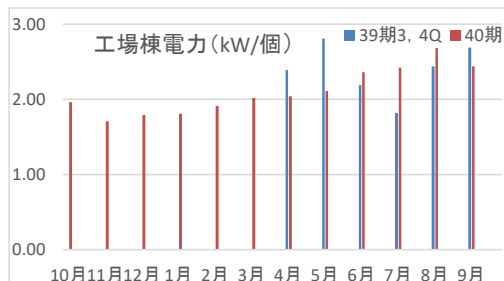


取組紹介欄 【事務所棟使用量を日々チェック】



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	2,533	3,614	4,198	3,896	2,892	2,561	2,025	1,901	2,991	2,991	2,931	3,026
40期	2,062	2,351	2,381	2,476	2,427	1,861	1,349	1,356	1,583	1,935	1,517	1,529

電力による二酸化炭素削減(工場棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は6月以降を除き目標達成できました。6月以降は空調設備の増加などの季節的要因の影響を受け未達成でした。また41期では増設された設備が本格的に稼働していくと思われるので使用電力量や使用頻度を調査して活動していきたいと思います。
使用していない箇所の照明は消すようにする。	○	
休憩時はマシンのモーターをOFFにする。	○	
残業時間の平準化を行い最終稼働時間を早くする。	△	
退社時にパソコンの電源を切る。	○	
デマンド管理を行い、注意報、警報発生時の対処法を決める。	○	
LED照明を適正照度に設定する。	○	



取組紹介欄



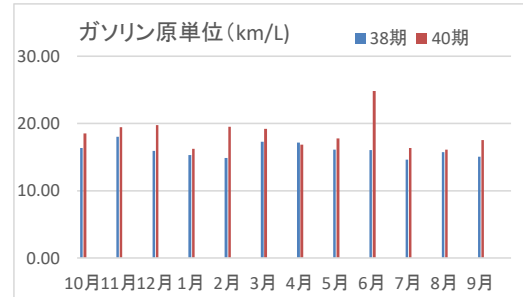
照度計にて測定実施し適正照度に調



掲示啓蒙活動

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
39期3, 4Q	-	-	-	-	-	-	2.39	2.81	2.19	1.82	2.44	2.69
40期	1.96	1.71	1.79	1.81	1.91	2.02	2.04	2.11	2.36	2.42	2.68	2.44

自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリン】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	3Qも燃料原単位19.06km/ℓ 目標値の117.6%と大幅に目標を超えることが出来た。19番プリウスが6月無給油と2000番ヤリスが燃料が無くなる寸前まで給油せず燃費を考えて走行した事が原単位向上に大きく貢献した。また6月中旬に営業車のハイブリッド車優先使用を今以上に高める為に営業車使用予定に19番プリウスと5000番カローラを明記し、今以上にハイブリッド車の使用頻度を高めるように意識付けるようにした。
空気圧チェック、タイヤ目視確認 1回/月 測定記録を月末に確認し空気圧±0.5k g 場合適正値にする。	○	
各車運転日報に燃費、空気圧の目標数値を記載	○	
月末に不要な荷物は積まない。	○	
オイル、エレメント交換を5,000k m毎に交換する。	○	40期は目標値の112.0%の数値で達成できた。8月だけ目標値を達成出来なかったが、猛暑の中での16.11km/ℓは各自意識があったからと考える。41期もこの意識を忘れずに各自活動して欲しい。
窓が曇った場合は外気を取り入れACの使用はしない。	○	
営業車乗り合わせによる給油量削減	○	
ハイブリット車を優先して使用する。	○	



取組紹介欄



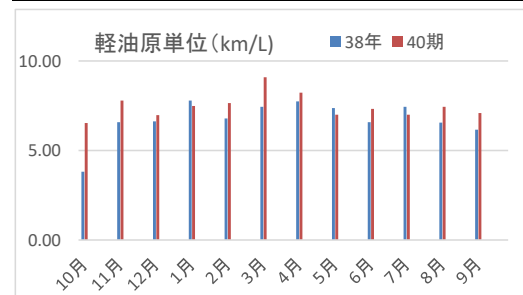
空気圧チェック



オイル交換

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38期	16.36	18.04	15.92	15.33	14.89	17.27	17.16	16.09	16.06	14.62	15.71	15.06
40期	18.51	19.46	19.76	16.24	19.48	19.18	16.82	17.77	24.85	16.35	16.11	17.54

自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は全Qで目標達成できていましたが数ヶ月は4t車が目標未達成になっていました。
配達ルートの効率化を図る。	○	来期は4t車の燃費をもう少し向上出来るような活動を考えていきます。
各車両内に「アイドリング停止」を啓発する掲示および毎月の燃費・走行距離・目標値の掲示を行う。	○	また配送ルートの効率化ですがこの期末に出した配送先を1Qに1つずつ調査していきたいと思います。
タイヤの空気圧点検を1回/月行う。	○	
定期的にオイル交換（エンジンオイル・ミッションオイル）を行う。	○	
1Q毎に3t車、4t車のエアコンフィルターの清掃を行う。	○	
向け先別での燃費調査を行う。	○	



取組紹介欄



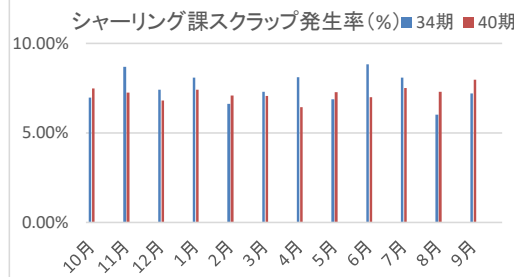
ドライバーと打合せ



フィルター掃除

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38年	3.82	6.58	6.62	7.79	6.78	7.45	7.75	7.37	6.57	7.44	6.56	6.16
40期	6.53	7.78	6.98	7.49	7.65	9.10	8.22	6.99	7.33	7.00	7.45	7.08

製造部スクラップ発生率(シャーリング課)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は4Qを除き目標達成できていました。 今期は、トップエンドの有効活用を中心に活動を行い、年間3,125,329円の金額効果となった。来期も継続して行い、残材を有効活用しやすい環境を整えて行きたいと思います。
トップエンドの有効活用	○	
在庫母材の変更による歩留まり向上	○	
各マシンの歩留り推移グラフを作成し掲示する。	○	
クレーム・加工ミス削減による不良品の削減。	○	
梱包方法を改善しスチールバンドの使用量を削減する。	○	



取組紹介欄



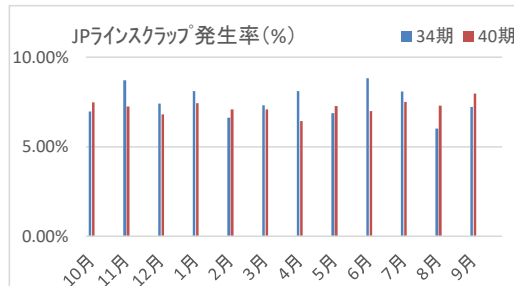
トップエンド置場明確



トップエンド使用推進

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
34期	6.97%	8.70%	7.40%	8.10%	6.62%	7.31%	8.10%	6.88%	8.82%	8.08%	6.02%	7.21%
40期	7.49%	7.25%	6.80%	7.42%	7.09%	7.07%	6.43%	7.26%	7.00%	7.51%	7.29%	7.97%

小梁受ピーススクラップ発生率(シートメタル課)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は全ての月で目標達成しました。今期では金型の破損などのチェックリストの方を行った事で、大きな排出率増加がありませんでした。来期でも今期行った事を継続していきたいです。
スリットコイルのトップエンド内での良品の選別。	○	
金型メンテナンスによる不良品発生抑制。	○	
歩留り推移グラフを作成し掲示する。	○	
金型ボルトの破損頻度(本/個)の調査を行い、事前交換を行う。	○	



取組紹介欄



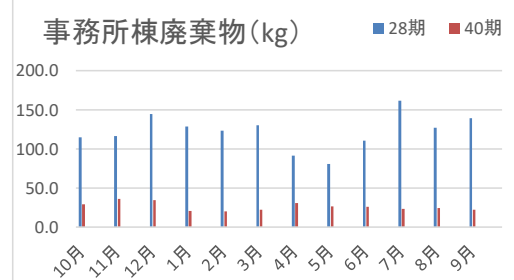
金型チェック



金型劣化確認

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38期	-	-	-	17.9%	19.5%	18.9%	17.8%	13.5%	18.0%	17.5%	18.5%	19.8%
40期	16.3%	16.2%	16.1%	16.2%	17.0%	16.2%	16.3%	16.7%	16.5%	16.6%	16.5%	16.4%

事務所棟一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	40期は平均排出量26.3kg/月となり、目標達成する事ができた。廃棄物処理の法令変更で、リサイクルセンターへの廃棄などしっかりと対応出来た。リサイクルセンターへの資源ごみ持込みで、交換品はティッシュペーパー21箱、トイレペーパー36個となった。また、コピー機の枚数管理からカラーコピーの使用枚数削減・費用削減を行えた。41期もこの活動を継続したい。
裏紙の再利用	○	
コピー用紙使用枚数の把握(コピー用紙の削減)※注力	○	
出荷依頼書などPDF活用を進め、コピー機の使用枚数削減を行う	○	
24/1月より廃棄紙ルール変更により、AIPA(住之江区)へ廃棄持込み予定。	○	
事務所廃棄物の分別方法を掲示する。	△	
工場/紙管をAIPAへ廃棄検討 → AIPA廃棄不可	△	



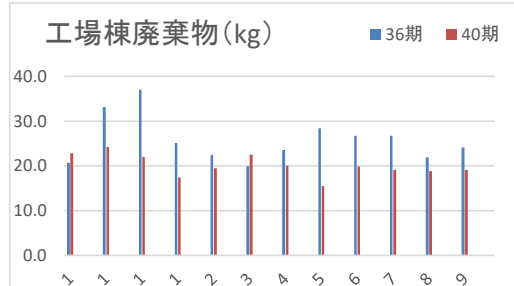
取組紹介欄



紙類はリサイクルセンターへ持込み

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	114.5	116.1	144.6	128.5	123.2	130.2	91.6	80.7	110.6	161.8	126.8	139.0
40期	29.3	35.8	34.7	20.6	20.3	22.4	30.6	26.7	25.7	23.5	24.3	22.2

工場棟一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全Qで目標達成でき、前期と比べて1.2kgと僅かですが削減できました。今期はリサイクルセンターの利用など新たな取り組みも増えました。更に削減出来るように再利用方法も含めて考えていきたいです。また混載バツカンの回収回数を前期比で1回減らすことができ回収費用の15,000円削減することができました。回収回数を少しでも減らせるような活動も進めていきたいです。
PPバンドを再利用し、廃プラの排出量を削減。	○	
ラベルの台紙をリサイクル。	○	
梱包方法改善による廃棄ゴミ削減。	○	
ラベルの台紙をリサイクル。	△	
廃プラゴミの分析を行い削減・再利用方法を検	○	
ダンボール・梱包紙での梱包時における梱包資材のロス削減。	△	



取組紹介欄



PPバンドの再利用



ラッピングを業者に返却

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
36期	20.7	33.1	37.0	25.1	22.4	19.9	23.6	28.3	26.7	26.7	21.9	24.1
40期	22.8	24.2	22.0	17.4	19.5	22.5	20.0	15.5	19.8	19.1	18.8	19.1

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全Qで目標達成できました。39期に比べて水漏れの影響がなくなったことで水使用量を半分近く削減できました。今後も水漏れチェックを行い続け漏れにいち早く対応できるよう活動していきたいです。また来期では雨水の活用方法も考えて行きたいです。
節水意識を高める為、毎月の使用量と金額およびQ毎に水に関する掲示を行う	△	
コンプレッサーの水漏れチェックを行う。	○	
トイレ掃除の節水方法の検討。	○	
毎日の水道メーターチェック (営業部)	○	
散水機周りの植栽整備年2回 (2Q4Q) 実施 (営業部)	△	
事務所電熱器の水漏れチェック	△	
マシン作業効率向上による作業時間の削減。	○	



取組紹介欄



水漏れチェック



水量調整

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
39期	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	958	862
40期	654	712	654	596	673	635	630	569	660	642	509	635

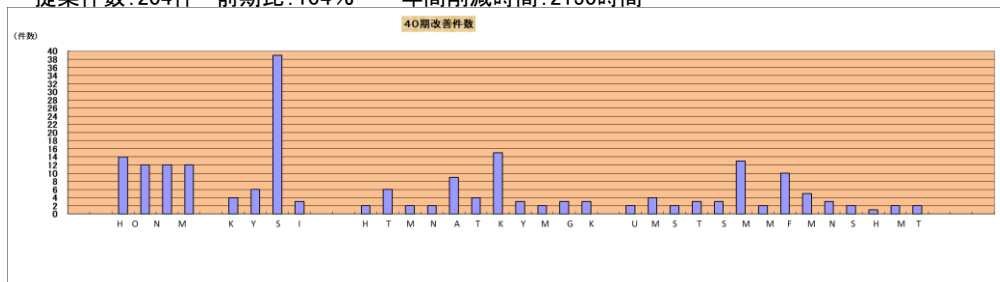
※39期10月から7月まで電熱器不良により、水漏れ発生によってこの間のデータは無効とする。

【企業価値向上】

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
OJT教育を1回/月行う。	○	全ての目標達成手段の項目が出来たのでA評価とした。工場棟LED照明交換により、変更前80lxを300lxになったことにより作業効率も向上した。今後は更に適正照度調整を行い他に作業環境を改善出来ることを検討する。
改善提案による効率改善	○	
設備メンテ計画の立案及び実施	○	
始業前設備点検及び月間設備管理	○	
作業場の照度UPを目的とした照明交換の検討	○	

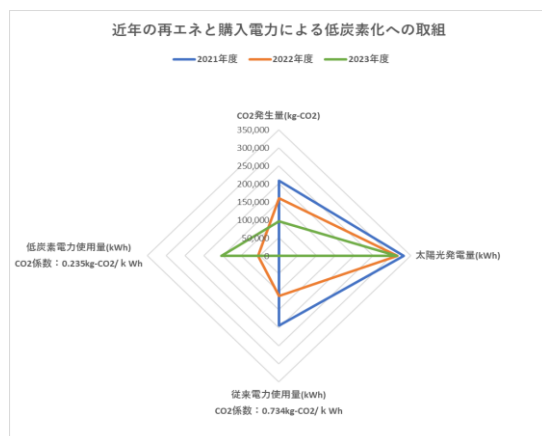
取組紹介欄

提案件数:204件 前期比:104% 年間削減時間:2150時間

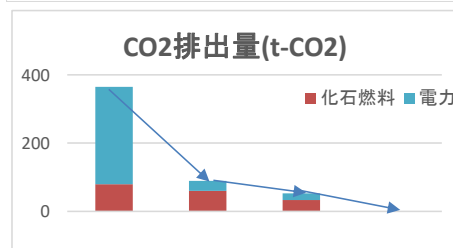


社会的課題を解決する取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
当社の二酸化炭素推移揭示 (39期月平均 13,279kg-CO2)	○	- 在庫重量においては40期通期で153.3%と目標には達することが出来なかった。4～6月の動きが想定より悪く申込み量とのバランスが崩れた事もあった。41期にかけては更に申込みの内容の精査を行い改善させていく。 - 電気自動車は達成できた今後経過を観察する。 - 公共交通機関を使つての営業活動においては40期で385kgCO2を削減しており金額効果も出ていることから41期も継続して行っていく。 - ソーラーパネルのリプレイスは検討を重ねた結果実施するが、工期が42期になる。
太陽光システムリプレースの検討	△	
在庫の圧縮 (目標在庫率120% 売上重量比)	○	
営業車乗り合わせ及び公共機関使用によるCO2削減	△	
電気自動車導入検討	○	

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み



項目	2021年度	2022年度	2023年度
CO2発生量(kg-CO2)	207,832	159,349	96,007
太陽光発電量(kWh)	330,907	314,612	312,843
従来電力使用量(kWh)	194,099	111,107	0
CO2係数: 0.734kg-CO2/kWh			
低炭素電力使用量(kWh)		55,369	152,177
CO2係数: 0.235kg-CO2/kWh			



単位: t-CO2

化石燃料	電力	対 策
80	285	太陽光パネル考慮せず。
60	30	CO2係数低い購入電気+公共機関+太陽光発電
33	20	省エネ+太陽光発電リプレイス+再エネ電力
0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ電力

当社のカーボンニュートラルに向けた取り組みとしては、「排出量」を減少させることを重点いたします。

①太陽光発電で賄い出来ない場合の購入電力を低炭素化を推進する。

現在従来CO2係数の50%減を最終的にはCO2係数「0」に変更する。

②再生可能エネルギーの有効活用を行います、然しながら2010年に設置した太陽光発電装置も15年経過して、発電効率も悪化してきました、2030年までに太陽光発電装置をリプレイスいたします。

これにより、15年前の発電量を確保し再生可能エネルギーを有効に活用いたします。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、廃油等）
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
顧客要求事項	品質管理 マネジメントシステムの運用

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等
なし。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024/9/14	■実施場所 事務所棟、工場棟、工場外周
■参加者： 社員全員	
■実施内容： ☐ 怪我人運搬 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 昼食時に地震発生が発生し、工場敷地内の避難場所に全員避難する、その後津波発生の情報を得て堺市指定の避難場所に避難する。	
■評価： コロナの影響もあり、昨年まで全社員対象で防災訓練をできなかったが今回全社員で避難訓練行った。記録員も増員して映像だけではなく、動画も記録した。動画を見ることにより一連の動作で不備な点、良かった点が非常に分かりやすかった。今後も動画での記録をにて訓練効果を上げて行きたい。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子  	

《評価と見直し結果》

- ①環境経営方針：変更なし。
- ②環境経営目標：環境経営目標に記載
- ③環境経営計画：環境経営計画書の取組結果とその評価に記載
- ④実施体制：現状体制を継続する。
- ⑤環境関連法規等の遵守状況：環境関連法規の取りまとめを行い、一覧を作成している。法規制の遵守を行っていることを確認した。
- ⑥その他環境経営システムに関する事項：毎月、社長自らが現場の安全確認などを確認している。

《総括》

- ・電力削減では工場棟LED照明更新⇒これは今までもLEDでしたが13年使用による経年劣化で作業者の手元の照度が不足していた、これはクレームの要因にも繋がっていた。作業環境に慣れて「暗い」状況でも当たり前と考えていた、非常に危険な状況であったが今回の照明確保により本来の「明るさ」はこれであることを理解したことは、作業性向上と品質向上に繋がることを期待しています。
 - ・燃料原単位の向上は社用車の空気圧の適正化の徹底
 - ・貨物車は効率の良いルートを運行
- ここでは自社の貨物車3台保有していたが、メンテ費用大で燃費の悪い10t車両を手放しました。⇒大型貨物を手放すのは大きな判断であるが、コスト・環境面を考えると良い決断と考えます。
- ・スクラップの削減に関しては自前で出来る事を確実に行った成果と作業者の意識向上によるものと考ええる。
 - ・廃棄物の削減は大阪府では紙類が燃えるゴミに出せなくなったことで、活動が活性化した。製造部では再利用にトライする姿勢が他の社員にも感染して効果を増幅させたと思う。
 - ・水資源削減が生活用水しかない「水」を更にアクションをとって減少させたことは非常に評価出来る。

取得して19年経過していますが、全ての実施責任者が何かをやろうと「やる気」があります。

当社の実施責任者は輪番制であり、固定にしない(マンネリ化防止)常に新人担当者です、不慣れでスムーズに行かない時・突拍子もない良い意見が出るこのような仕組みが幸いして今に至っていると考えます。各課では1回/月では末端まで周知徹底、1/4半期の環境委員会では(軌道修正)の場です。この仕組みを今後とも継続していきます。

来期は認証20年と節目の年になります、更なる飛躍をするには今まで通りの切り口では手詰まりになります、新たな切り口で斬新なる意見を多く求めています全員参加でがんばりましょう。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

口これまでの環境活動の紹介

エアコン消し忘れの見える化



工場照明調光中



水道のコマの清掃



貨物車のフィルター清掃



避難訓練(事務所より避難)



避難訓練(みんな机に隠れています)



口編集後記

今期も皆さんに助けられて、無事活動を終えました。振り返ってみるに環境責任者という立場で実施責任者には上げ足取りのような発言ばかりしたように思います。運営が円滑であったのは推進員、部門長の指導の賜物と思います。

考えて実行するのは皆さんですので、今後ともよろしくお願いいたします。

それと今期は期首にお願いした「活動は映像を多く残して下さい」と伝えたことを守って頂き、編集に苦労するくらいの画像です、これも継続願います。